

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	舗装二次改築事業			事業コード	1440
所属コード	81000	課等名	道路管理課	係名	維持係
課長名	宮田晃	担当者名	大丸 篤志	内線番号	2711
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	快適な居住環境の実現	コード	3
	基本事業	生活道路環境の向上	コード	1
予算費目名	一般会計 8 款 2 項 2 目 舗装二次改築事業（001-04）			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	不明年度
根拠法令等	道路法第 16 条			

(2) 事務事業の概要

市道の道路交通の安全確保を図るために、老朽化した道路舗装を二次改築する事業である。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

市道路管理者が行う維持管理業務であり、市道の安全な通行確保、及び沿道の環境整備を図る。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

厳しい財政状況のもと、全ての市民要望への対応は困難なことから、緊急性等を考慮して計画的に整備していく必要がある。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が、何が対象か）

道路の通行機能が低下するなど、舗装二次改築が必要な路線を対象とする。

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 舗装二次改築必要延長	m	17,025	17,025	17,025	17,025	17,025
B						
C						

（3）24 年度に実施した主な活動・手順

舗装二次改築の必要な路線を実施した。

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 舗装二次改築予算措置延長	m	1,665	1,230	1,100	1,748	17,025
B						
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

安全な通行の確保，沿道の環境整備（振動・騒音）

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 舗装二次改築整備延長累計	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	m	8,301	9,531	10,631	11,279	17,025
B 舗装二次改築達成率（整備延長累計/ 必要延長）	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	%	49	56	62	66	100
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①	千円	42,019	38,014	39,600	44,584
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	34,500	29,600	29,100	34,700
	④一般財源	千円	1,976	3,303	3,300	3,929
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	78,495	70,917	72,000	83,213
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	764	691	720	810
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	3,056	2,764	2,880	3,240
計	トータルコスト A+B	千円	81,551	73,681	74,880	87,263
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

整合性はとれている。

理由：事業の実施により，安全な交通が確保される。

② 市の関与の妥当性

法定事務であり妥当である。

③ 対象の妥当性

法定事務であり妥当である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。（快適で安全な道路環境が保てない。）

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地はない。（緊急性を考慮し，限られた予算の中で事業実施しているものであり，現状より向上は困難である。）

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

特定な受益者はいない。

(4) 効率性評価

適正な積算基準・仕様で設計・積算をしていることから、削減することは出来ない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

老朽化が進んでいる市道の舗装二次改築を行い、市道の安全で円滑な交通の確保を図るため、必要な事務事業である。

平成 24 年度は、1,748m を改築し達成率は 66% となった。